

# 王室ファッション裏話

服飾史家・中野香織

⑤



## 「エリザベス2世」

ドロシー・ウィルディング撮影、ベアトリス・ジョンソン彩色 1952年 セラチン・シルバー・プリント (手彩色) ロンドン・ナショナル・ポートレートギャラリー蔵

©William Hustler and Georgina Hustler / National Portrait Gallery, London

# 統合の象徴輝く王冠

当時のお気に入りデザイン。国の統合の象徴なのだ。

ナー、ノーマン・ハートネ

ルのイブニングドレスにシ

ュエリー、ガーター勲章の

青い大綬と星章をつけてい

る。頭部には、一八二〇年

に国王ジョージ四世が作ら

せて以来、歴代の英国王と

王妃が受け継いできたダイ

ヤモンド王冠が輝く。計千

三百三十三個のダイヤモン

ドが使われている王冠で、

イングランドの薔薇、アイ

ルランドのクロバー、ス

コットランドのアザミが意

匠として含まれている。英

国の統合の象徴なのだ。

エリザベス二世は自身の

戴冠式を「英国との結婚」

とみなし、女王の意をくん

だノーマン・ハートネルは

戴冠式のドレスに連合王国

を構成する国の植物を刺繍

した。以後、六十八年間、

「帝国」は縮小し、英国社

会も激変したが、エリザベ

ス二世だけは何かあるとと

英国女王としての威厳と品

格を示し続け、いまや世界

の女王といった貫禄で私た

ちを魅了する。

おわり